

# 哲 學 研 究

第 二 十 一 卷 第 十 一 冊

第 二 百 四 十 八 號

昭 和 十 一 年 十 一 月 一 日 發 行



(大正五等四月六日第三種郵便物認可)昭和十一年十月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

論理の社會存在論的構造(承前)

..... 文學博士 田 邊 元

歴史的基體..... 文學士 高 坂 正 顯

性 と 血(承前)

—— 原本的人間及び原本的社會の實在的諸要素 ——

..... 文學士 高 山 岩 男

京 都 帝 國 大 學 文 學 部  
京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究会ヲ開ク
  - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士		
天野真祐	岩井勝二郎	植田壽藏	臼井二尙	小島祐馬	木村素衛	九鬼周造	田邊一元	中井正一	西谷啓治	野上俊夫	羽溪了諦	波多野精一	服部英次郎	本田義英	山内得立

# 京都哲學會公開講演會

來る十二月二十一日(土曜日)午後一時半より京都帝國大學法學部第四教室に於て左記の如く公開講演會を開催致します

## 宗教とその歴史性

京都帝國大學助教授文學士 西谷啓治君

## 感情に就て

京都帝國大學講師文學士 島芳夫君

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

## 前 號 目 次

論理の社會存在論的構造……………文學博士 田邊 元

歴史に於ける辨證的と產出的 (承前)……………文學士 山良哲次

ジャン・ルカジェウイツ『多價命題計算學に就て』……………文學士 近藤洋逸 譯

會 告

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候  
 京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候  
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候  
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候  
 ◆ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

冊 數	定 價	郵 價	稅 額
一冊	金四拾錢	金壹錢	受
六冊(前金)	金貳圓四拾錢	不	受
十二冊(前金)	金四圓八拾錢	不	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年十月廿五日印刷納本 行 第二百四十八號 第二十二卷 昭和十一年十一月一日發

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勤兵衛

印刷者 須磨勤兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 販賣所 東京市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣捌所 (東京) 寶文館 北海堂 東京屋 東海堂 (大阪) 寶文館 上田屋 參文社 (神戸) 寶文館 盛文館 (京都) 大寶文社 川瀬書店

不許複製 轉載 禁

# 島 芳 夫 著

## ル ソ ン

〔西哲叢書〕

各價一・三〇 稅一・四  
 四六クロス 約二八〇頁  
 コロタイプ 口繪一葉

### 新 刊

ルソンの作品の特色は己れを語る作品であり、彼の生活と密接に結合してゐる點に在る。其故彼の作品の理解は彼の生活を知らずしては完全たり得ない。だが彼の生活は單に作品を生む背景以上の重大な意味を持つてゐる。彼の生活自體が彼の告白及び第三者の記述を通じて作品になつたのだ。彼の大衆の評判の一の原因は、彼の異常な生活に對する獵奇的興味にあると思はれるが、併し作品としての彼の生活の意義は、肉體的餘りに強い感受性を持つた人間の魂の愛難史であり、あらゆる人間的な弱さと美しさとを共に具へた悲劇的な魂の、不幸と迫害を通じての自己鍛錬たるところにある。哲學者から人生の問題に就ての反省と暗示とを期待する人々は、當然ルソンの生活を彼の作品と共に知らねばならぬ。彼の生涯は生れ出づる悩みを負はされた近代人の複雑な心理の赤裸々な文書である。

近 刊

既 刊

メーヌ・ド・ピラン  
 ギンケルマン  
 プラトマン  
 シェリンゲン  
 ソクラテス  
 スピノザ  
 フーコー  
 ゲーゼル

澤 瀧 久 敬 著  
 井 島 勉 著  
 長 澤 信 壽 著  
 勝 田 守 一 著  
 後 藤 孝 弟 著  
 篁 藤 孝 弟 著  
 下 程 勇 實 著  
 高 山 岩 男 著

（大正五年四月六日）昭和十一年十一月廿五日印刷納本（毎月一回）  
 （第三種郵便物認可）昭和十一年十一月一日發行

哲學研究 第二百四十八號 定價金四拾錢

郵稅金壹錢五厘

五〇七一 阪大振・町太丸町寺都京  
 九〇九三五 京東振・臺河駿田神京東

弘 文 堂

